

病害虫発生予察情報 第6号

富山県農林水産総合技術センター所長

9月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（穂いもち）	並	—	野菜	白ねぎのネギハモグリバエ	やや少ない	—
	斑点米カメムシ類		—		白ねぎのシロイチモジヨトウ	並	—
	アカヒゲホソドリカスミカメ	やや少ない	—		ハスモンヨトウ	やや少ない	—
	アカスジカスミカメ	やや少ない	—		ネキリムシ類	やや少ない	—
	トゲシラホシカメムシ	やや少ない	—		タバコガ類	少ない	—
	クモヘリカメムシ	多い	—		果樹	果樹のカメムシ類	やや少ない
	ツマグロヨコバイ	少ない	—	リンゴの褐斑病		並	—
	ヒメトビウンカ	少ない	—	リンゴの炭疽病		やや多い	—
	セジロウンカ	並	—	リンゴのハダニ類		多い	—
	トビイロウンカ	並	遅い	ニホンナシの黒星病		並	—
コブノメイガ	並	遅い	ニホンナシのナシヒメシクイ	並		—	
大豆	紫斑病	やや多い	—	ニホンナシのハマキムシ類		並	—
	フタスジヒメハムシ	やや多い	—	ニホンナシのハダニ類		多い	—
	アブラムシ類	並	—	ブドウのべと病		並	—
	ハスモンヨトウ	やや少ない	—	カキ（三社）の炭疽病		並	—
	大豆カメムシ類	並	—	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	並	—	
	ハダニ類	少ない	—	モモのせん孔細菌病	並	—	
野菜	白ねぎのさび病	少ない	—	モモの灰星病	並	—	
	白ねぎの軟腐病	並	—	花き 球根	きくのアブラムシ類	並	—
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	少ない	—		ハスモンヨトウ	やや少ない	—
	白ねぎのネギアザミウマ	並	—		タバコガ類	少ない	—

I 水 稻

1 いもち病（穂いもち）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の発病株率は0%で、平年（0.02%）並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
 - ・ 防除指針 31～32 ページ参照

2 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.18頭で平年（0.23頭）よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
 - ・ 晩生品種については、防除終了後もカメムシ類の侵入が見られる場合は追加の防除を行う。
 - ・ 防除指針 41～42ページ参照

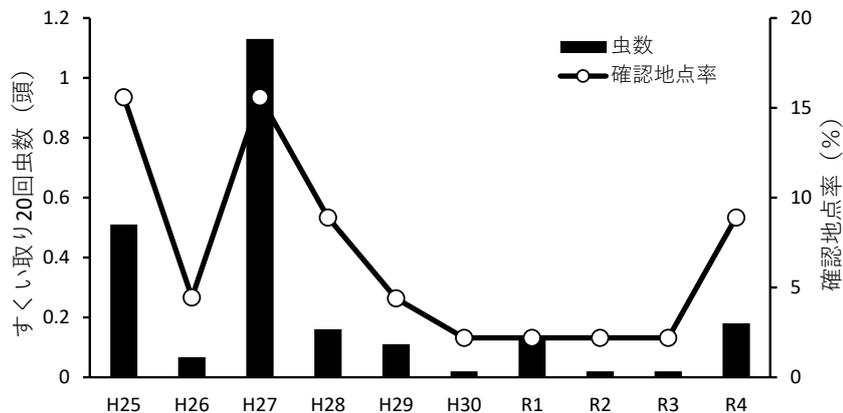


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

3 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
 - 【少発要因】
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0頭で平年（0.21頭）より少なく、確認地点率も0%で平年（8.0%）より低かった。
- (3) 防除対策
 - ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
 - ・ 防除指針 41～42ページ参照

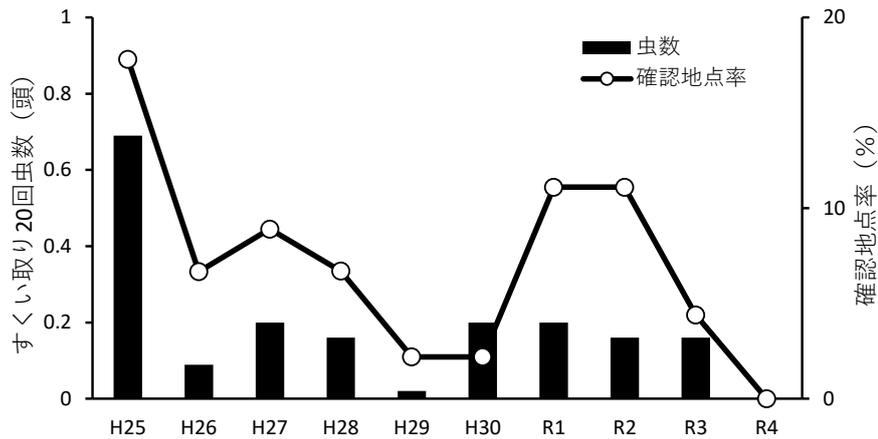


図2 アカスジカスミカメの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

4 斑点米カメムシ類 (トゲシラホシカメムシ)

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0頭で平年 (0.07頭) よりやや少なく、確認地点率も0%で平年 (5.3%) よりやや低かった。

- (3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・ 防除指針 41～42ページ参照

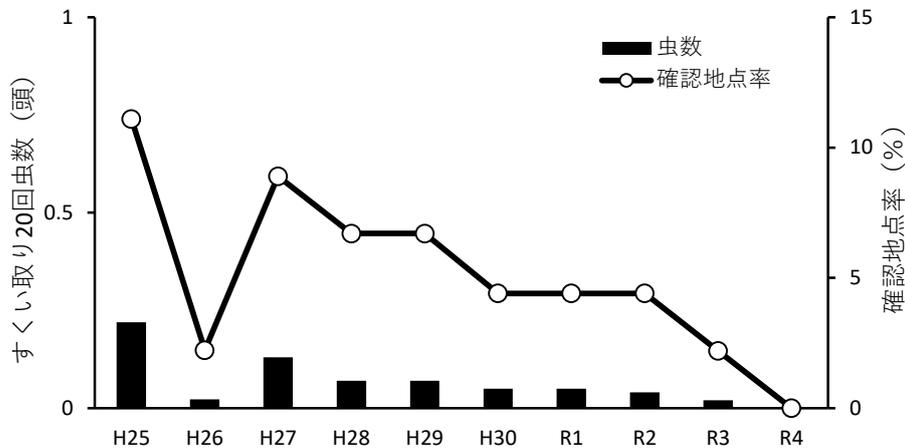


図3 トゲシラホシカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

5 斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ)

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は0.64頭で、平年 (0.04頭) より多く、確認地点率も6.7%で平年 (2.2%) より高かった。

- (3) 防除対策

- ・ 散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は追加防除を実施する。

- ・防除薬剤はカスミカメムシ類に準じ、残効性の高い薬剤が有効である。
- ・防除指針 41～42ページ参照

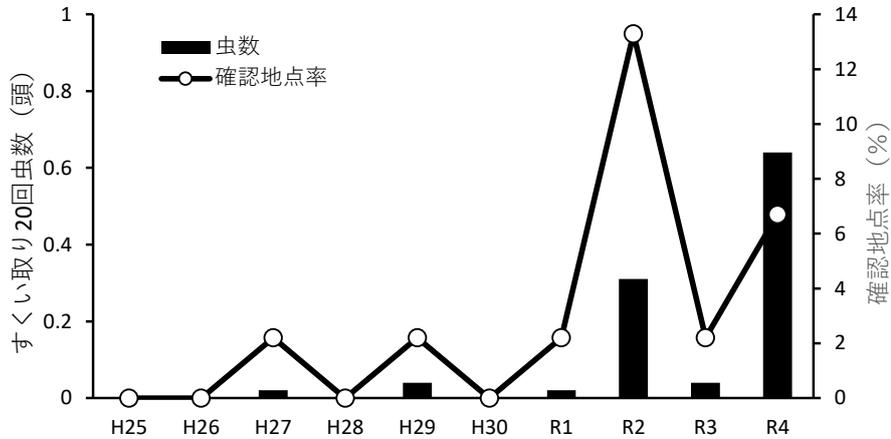


図4 クモヘリカメムシの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

6 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・8月20日調査の本田すくい取り虫数は2.7頭で平年（15.4頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 38ページ参照

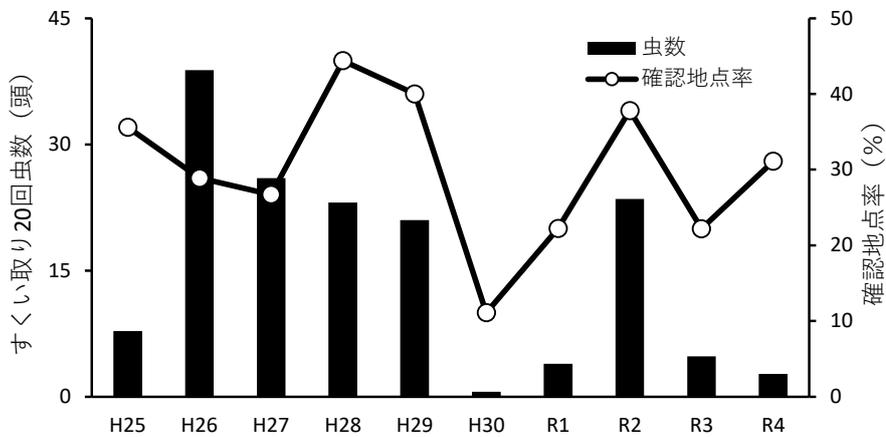


図5 ツマグロヨコバイの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

7 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・8月20日調査の本田すくい取り虫数は16.2頭で、平年（83.2頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 39～40ページ参照

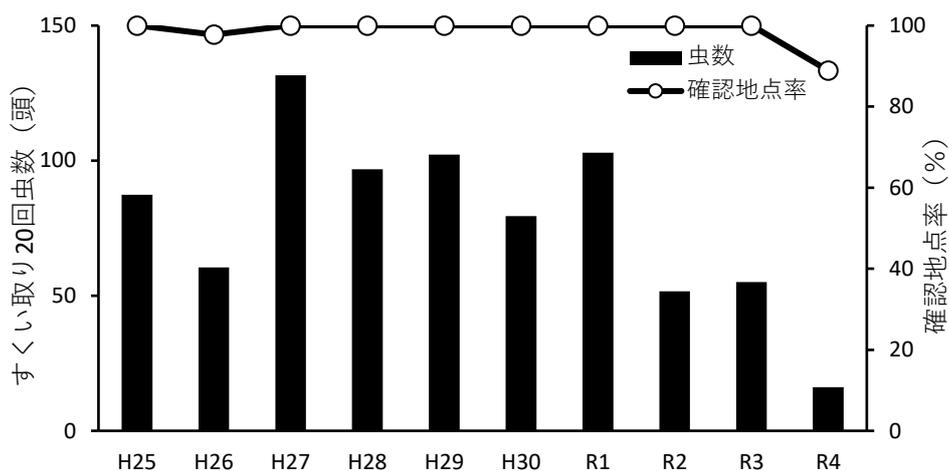


図6 ヒメトビウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

8 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 8月20日調査の本田すくい取り虫数は3.1頭で、平年(3.0頭)並であった。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 39～40ページ参照

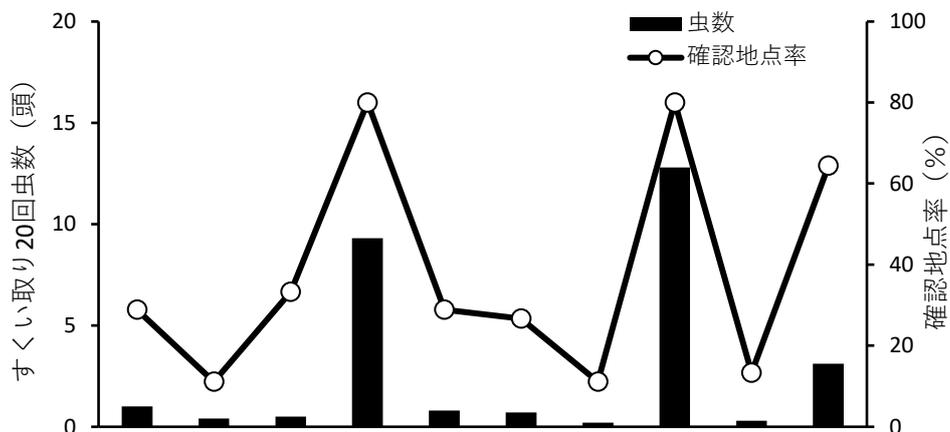


図7 セジロウンカの水田内生息状況年次推移(8月20日調査)

9 トビイロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：遅い
- (2) 予報の根拠
 - 【遅発要因】
 - ・ 現在、発生は確認されていない(平年の初発は8月7日)。
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 39～40ページ参照

10 コブノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：遅い

- (2) 予報の根拠

【遅発要因】

- ・現在、発生は確認されていない（平年の初発は8月3日）。

- (3) 防除対策

- ・晩植田で多発することが多いので注意する。
- ・防除指針 40ページ参照

II 大豆

1 紫斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・8月の降水量が多かった。

- (3) 防除対策

- ・多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・刈遅れは発病を助長するので、刈遅れに注意し、収穫後はすみやかに乾燥する。
- ・防除指針 53 ページ参照

2 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・8月25日調査の払落虫数は0.24頭で、平年（0.16頭）よりやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・払落調査を行ってほ場での発生推移を確認し、第2世代成虫の発生初期から盛期に防除する。
- ・防除指針 56 ページ参照

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並

- (2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の寄生株率は3.3%で、平年（2.5%）並であった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 55 ページ参照

4 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は128.6頭で、平年(196.6頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 56 ページ参照

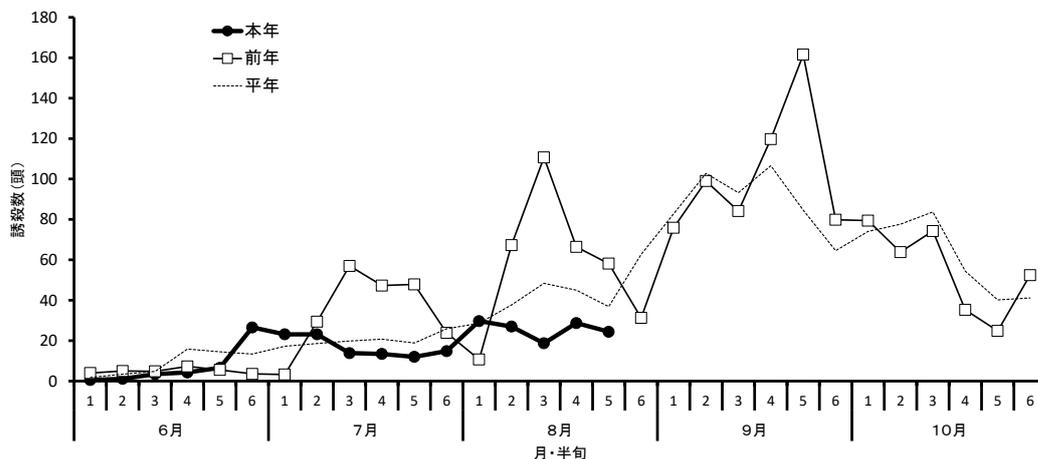


図8 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺数推移

5 大豆カメムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の1条間1.8m払落虫数は0.09頭で、平年(0.08頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・多発が懸念されるほ場では、ほ場周辺部を中心に払落調査を行い、発生が見られ場合は追加の防除を行う。
- ・防除指針 55 ページ参照

6 ハダニ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・8月25日調査の被害株率は9.5%で、平年(18.2%)より低かった。

(3) 防除対策

- ・発生がみられたら薬剤防除を実施する。その際、薬剤が確実に葉の裏にかかるよう留意する。
- ・防除指針 54 ページ参照

Ⅲ 野 菜

1 白ねぎのさび病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月25日調査の発病株率は0%で、平年（0.5%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 98 ページ参照

2 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 多湿ほ場で発生が多いので、排水対策を徹底し、降雨後は速やかに排水する。
- ・ 発病株は速やかに抜き取って圃場外に持ち出し、適切に処分する。
- ・ 薬剤散布は発生初期の防除に努め、必ず展着剤を加用して、株元まで薬液が十分に付着するよう丁寧に散布する。
- ・ 防除指針 99 ページ参照

3 白ねぎの黒斑病・葉枯病

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月25日調査の発病株率は4.0%で、平年（10.2%）より低かった。

(3) 防除対策

- ・ さび病の防除に努める。
- ・ 防除指針 99 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 8月25日調査の被害株率は28.0%と平年（52.5%）よりやや低かったが、9月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 100～101 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 8月25日調査の被害株率は10.4%と平年(19.1%)よりやや低かった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 100 ページ参照

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数は130.2頭で、平年(96.6頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 101 ページ参照

7 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は128.6頭で、平年(196.6頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 66～136 ページのハスモンヨトウの項参照

8 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は、タマナヤガが24.3頭で平年(29.4頭)よりやや少なく、カブラヤガは28.0頭で平年(55.7頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・ ほ場周辺の雑草は、播種・定植前に刈り取る。
- ・ 定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・ 防除指針 68～133 ページのネキリムシ類の項参照

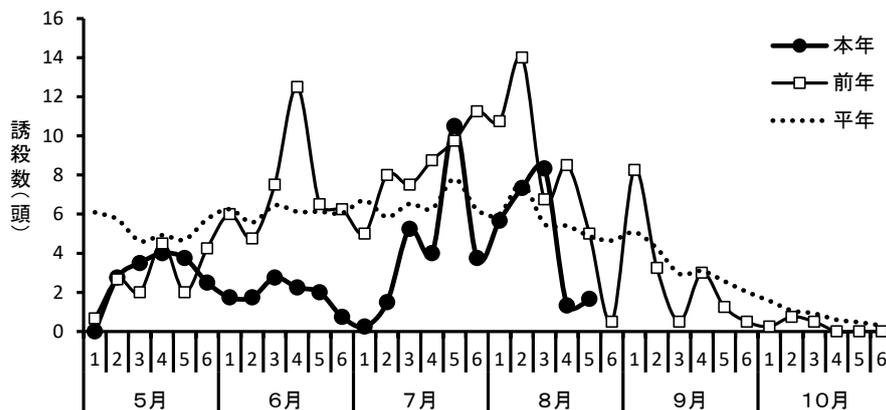


図9 タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

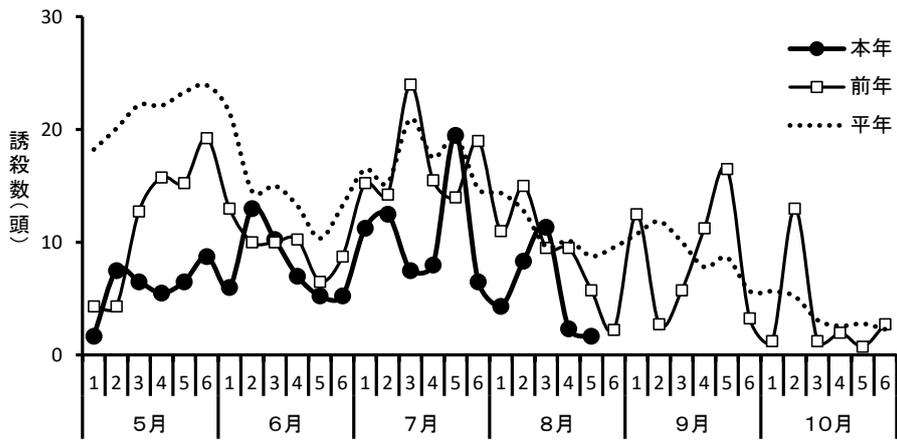


図10 カブラヤガのフェロモントラップ誘殺数推移

9 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが25.0頭で平年(50.4頭)より少なく、オオタバコガも17.4頭で平年(55.4頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 67～114ページの野菜のタバコガ類の項参照

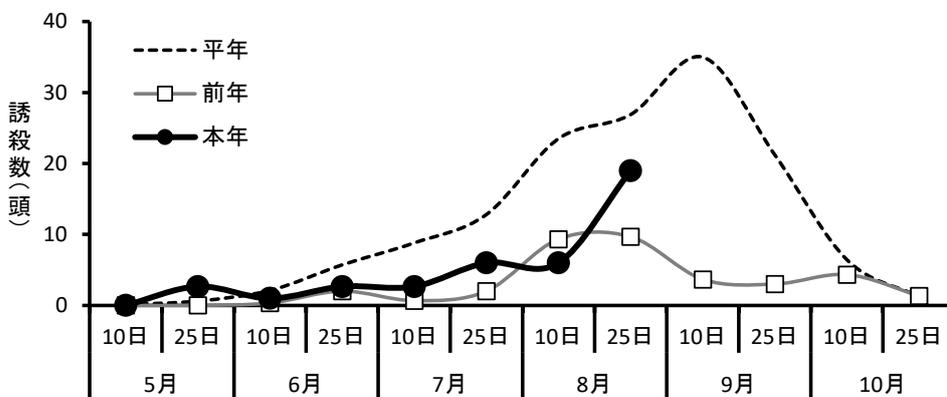


図11 タバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

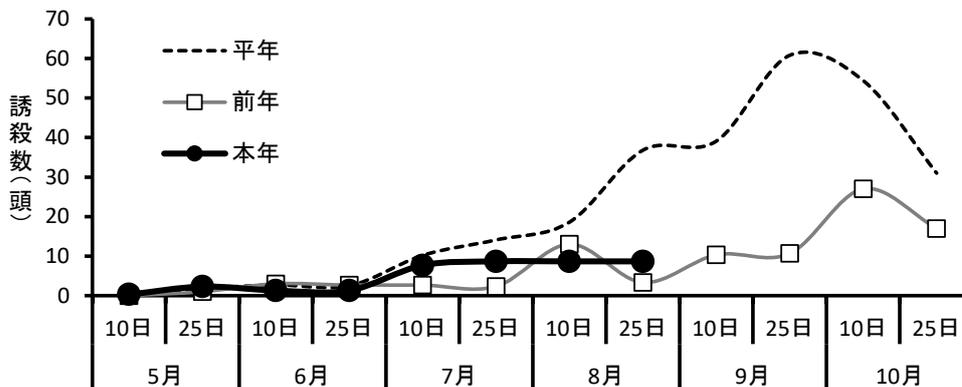


図12 オオタバコガのフェロモントラップ誘殺数推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月3半旬～8月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は2.1頭で、平年(10.1頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、園地への飛来が見られる場合は効果の高い薬剤(ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等)を散布する。なお、合成ピレスロイド剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期(収穫前日数)に注意する。
- ・防除指針：リンゴ 145～146、148～149 ページ、ニホンナシ 156、159～160 ページ、カキ 171 ページ参照

2 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・薬剤の散布前には主幹部や主枝上の徒長枝など樹幹内部の混み合っている新梢を整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤到達性を向上させる。
- ・り病した葉や果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
- ・台風等風雨後や長雨が予想される場合は、トップジンM水和剤(1,500倍、収穫前日まで)を散布する。
- ・防除指針：141～143、147～148ページ参照

3 リンゴの炭疽病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・り病した果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い園地では、オーソサイド水和剤 80(800倍、収穫前日まで)を散布する。
- ・防除指針：141、143、147～148 ページ参照

4 リンゴのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。
- ・9月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には、主幹部や主枝上の徒長枝など樹幹内部の混み合っている新梢を整理するとともに、枝つりや支柱入れを行い、薬剤到達性を向上させる。
- ・発生状況に注意し、発生が見られた場合は速やかに防除する。なお、収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：146～147 ページ参照

5 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策

- ・り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い場合は、収穫直後にオーソサイド水和剤 80（1,000倍、収穫3日前まで）を散布する。
- ・防除指針：152～155、158 ページ参照

6 ニホンナシのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月3半旬～8月3半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は14.9頭で、平年（9.9頭）並であった。

- (3) 防除対策

- ・被害果は見つけ次第園地外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い園地では、アグロスリン水和剤（2,000倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・収穫中の品種や収穫時期が近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：152、155～156、159～160ページ参照

7 ニホンナシのハマキムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月3半旬～8月3半旬のリンゴコカクモンハマキの誘殺数は0.3頭で、平年（0.5頭）並であった。

- (3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、9月上中旬にアグロスリン水和剤（2,000倍、収穫前日まで）を散布する。
- ・収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
- ・防除指針：152、155、159～160 ページ参照

8 ニホンナシのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。
 - ・9月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・発生状況に注意し、発生が見られた場合は速やかに防除する。なお、収穫中の品種や収穫時期に近い品種については、農薬の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 - ・防除指針：157、159～160 ページ参照

9 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は平年並であった。
 - ・9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・発生が見られる園地では、銅水和剤又は硫黄・銅水和剤（収穫前日数は制限なし）を散布する。
 - ・防除指針：162～165ページ参照

10 カキ（三社）の炭疽病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は平年並であった。
 - ・9月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・り病した枝や果実は見つけ次第、園地外に持ち出して処分する。
 - ・長雨が予想される場合や発生が多い場合は、QoI剤又はナリアWDGを散布する。
 - ・防除指針：168～170ページ参照

11 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる7月3半旬～8月3半旬の誘殺数は100.0頭で、平年(141.8頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・殺虫剤は散布むらを生じないように丁寧に散布する。
- ・9月上旬に主幹や主枝の基部に古紙や新聞紙を巻きつけ(バンド誘殺)、12～1月にはこれを外し、巻きつけた部分の粗皮を集めて処分する。
- ・防除指針：168、170～171ページ参照

1 2 モモのせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は平年並であった。

(3) 防除対策

- ・病原細菌の越冬密度を低下させるため、9月中旬～下旬にICボルドー412(30倍)を2回散布する。
- ・台風等強風が予想される場合は、事前にICボルドー412(30倍)を散布する。
- ・防除効果を高めるため、散布前には秋季せん定を実施する(作業終了後、速やかに切り口に保護材を塗布する)。
- ・防除指針：173、176ページ参照

1 3 モモの灰星病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は平年並であった。

(3) 防除対策

- ・樹上又は地面に落果している被害果は、翌年の伝染源となるので見つけ次第速やかに園地外に持ち出して処分する
- ・防除指針：173ページ参照

V 花き・球根

1 きくのアブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・8月25日調査の1葉虫数は0.3頭で、平年(0.2頭)並であった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 194～195ページ参照

2 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺数は128.6頭で、平年（196.6頭）よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 198～214 ページのハスモンヨトウの項参照

3 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる7月6半旬～8月5半旬の誘殺数はタバコガが25.0頭で平年（50.4頭）より少なく、オオタバコガも17.4頭で平年（55.4頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 198～214 ページのオオタバコガ、タバコガの項参照

○適切な農薬を選択するとともに、使用量・時期・回数等の遵守に努めましょう

農薬を使用する場合は、登録や防除予定の作物に適用のある農薬を選択することが必要です。農薬を使用する際には、使用前に容器等のラベルの内容を確認し、農薬の使用量、希釈倍率、使用時期、回数等の使用基準を守りましょう。

○周辺作物や近隣住宅等への農薬の飛散防止対策に努めましょう

農薬は適用作物以外に使用できません。

また、周辺作物への農薬飛散を防止する取組が必要です。風向き等に気をつけるなど飛散防止への注意を払いましょう。

さらに、農薬を散布する場合は近隣住宅や農家、養蜂家に対して農薬散布計画等の情報についても周知に努めましょう。

北陸地方 3か月予報
 (予報期間 9月から11月)

8月23日
 新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
 気温は、高い確率50%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。
 気温は、高い確率50%です。

11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	北陸地方	09月~11月	20 30 50
		09月	20 30 50
		10月	20 30 50
		11月	30 40 30
降水量	北陸地方	09月~11月	30 40 30
		09月	30 40 30
		10月	30 30 40
		11月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)